

令和6年度委託型地域包括支援センター実績（4～12月）

資料 1-1

1 日常生活圏域別人口動態（令和6年4月1日現在、住民基本台帳から算出）

項目	令和4年4月	令和5年4月	令和6年4月	第1圏域	第2圏域	第3圏域
人 口	56,998	55,823	54,646	16,624	19,824	18,198
世帯数	26,706	26,751	26,717	8,540	9,908	8,269
高齢者数	22,297	22,122	21,987	6,955	8,011	7,021
高齢化率(%)	39.1	39.6	40.2	41.8	40.4	38.6
（75歳以上）	11,670	11,970	12,193	3,982	4,490	3,721
独居世帯数	5,710	5,848	5,967	2,043	2,273	1,651
高齢者のみ世帯数	3,738	3,738	3,792	1,203	1,409	1,180

- 人口及び高齢者数は減少傾向であるが、75歳以上の高齢者数は微増。
- 高齢化率は40.2%。すべての圏域で微増加傾向にある。第1圏域は最も高い高齢化率。
- 75歳以上高齢者数、独居世帯数、高齢者のみ世帯数は全ての圏域で微増傾向にあった。

2 包括的支援事業実績

業務内容		令和4年度	令和5年度	令和6年度	東部 c	中央 d	西部 e
				年度 b=c+d+e			
総合相談支援業務（高齢者の介護、生活等に関する相談）	実件数	2,360	2,643	2,444	644	906	894
	延件数	8,569	8,472	8,100	3,183	1,966	2,951
権利擁護業務（成年後見制度、高齢者虐待に対する支援等）	実件数	106	121	101	29	36	36
	延件数	1,092	645	859	210	281	368
包括的継続的ケアマネジメント業務（介護支援専門員等への支援）	実件数	163	245	192	8	127	57
	延件数	717	827	684	10	373	301
介護予防ケアマネジメント・介護予防支援等（要支援1、2の介護保険サービスの調整）	実件数	966	1,231	1,303	443	372	488
	延件数	3,368	3,806	3,964	1,077	811	2,076
任意事業（介護相談等）	実件数	2	3	0	0	0	0
	延件数	3	4	0	0	0	0
その他（高齢者以外の相談）	実件数	13	17	9	0	4	5※
	延件数	41	127	20	0	6	14※
苦情	実件数	1	1	0	0	0	0
	延件数	2	1	0	0	0	0
合計	実件数	3,611	4,261	4,049	1,124	1,445	1,480
	延件数	13,792	13,882	13,627	4,480	3,437	5,710

※介護者の離職に関する相談を含む 実1／延べ1

業務内容	令和4年度	令和5年度	令和6年度	東部	中央	西部
高齢者実態把握事業(75歳ひとり暮らし高齢者への訪問)	316	444				
高齢者実態把握事業(80歳ひとり暮らし高齢者への訪問)			110	36	56	18
地域ケア会議開催回数()は個別課題解決機能	12(11)	17(16)	12(7)	5(1)	5(5)	2(1)
地域とのネットワークづくりの実施回数	78	71	64	4	8	52
認知症普及啓発実施回数	40	41	50	5	15	30
一般介護予防支援回数	95	116	145	32	29	84

※4年度及び6年度実績は4月～12月までの実績。令和5年度実績は4月～11月までの実績。

- 令和6年度の高齢者実態把握事業は対象年齢を80歳でかつひとり暮らしの方に変更して実施。次年度は、地区の実態を把握する目的を達成するため、対象年齢については見直していく。
- 地域ケア会議の開催回数は前年度と比較し、減少したが、必要に応じた開催はできた。種別では個別課題解決機能を中心。
- 認知症普及啓発や一般介護予防支援回数は前年度と比較し増加傾向。9月の世界アルツハイマー月間には、市役所庁舎の他、市民センター、こも浦荘、市立病院、図書館、芦崎いこいセンターにてパネル展示を実施。

3 介護予防ケアマネジメント・介護予防支援件数

業務内容		委託型地域包括支援センター(件)					
		令和4年度	令和5年度	令和6年度 b=c+d+e	東部 c	中央 d	西部 e
委託型地域包括支援センター直営分	新規	14	38	9	1	5	3
	継続	518	496	647	152	207	288
居宅介護支援事業所委託分	新規	130	155	176	71	56	49
	継続	3,786	3,627	4,366	1,687	1,599	1,080
合計		4,448	4,316	5,198	1,911	1,867	1,420

※令和6年実績は委託型地域包括支援センターの月報からの集計。

令和6年度委託型地域包括支援センター業務チェックシート

<センター記入者>

銚子市(東部)地域包括支援センター	センター長：加藤 康雄
-------------------	-------------

*このシートを作成するにあたり、センター職員全員で協議し、共通認識を図ってください。「選択理由及び取り組み状況等」は必ず記載してください。

1 地域包括支援センターの運営体制

チェック項目	自己評価	選択理由及び取り組み状況等	行政評価
①施設設備、業務体制			
1 窓口開設日、窓口開設時間は適切であり、24時間連絡可能な体制を確保し、緊急時には速やかに対応している。	ア 満たしている イ ほぼ満たしている ウ 満たしていない	ア 窓口開設時間は、平日の8時30分～17時30分としており、仕様書の規定の時間より15分多く窓口を開放している。転送電話で24時間対応可能な体制でチラシにも記載し周知している。緊急時は、一斉メールなどで職員と連絡を取る体制としている。	ア
2 苦情に対し、誠実に対応し再発防止に努めている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当なし	ア 苦情対応件数(実 0 / 延べ 0 件) 苦情対応マニュアルを作成し、包括内で共有出来る体制としている。また、基幹型と情報共有に努めている。	ア
②職員体制			
3 センターの人員配置が仕様書の規定を満たしている	ア 満たしている イ ほぼ満たしている ウ 満たしていない	ア 主任介護支援専門員2名、社会福祉士1名、保健師に準ずる者(看護師)を1名、事務員を業務で1名配置。	ア
4 開設時間内は、専門職及び事務職が必ず事務室内に残り、相談業務に対応できる体制になっている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 毎朝ミーティングを行い、各職員の業務内容を共有し、事務所持機者を明確にしている。またホワイトボードに月間の予定を書き込み、緊急時対応できる体制を確保している。	ア
5 管理者(センター長)の役割が明確であり、職員が理解している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 支援の方向性、対応については逐一報告を受け、センター長が判断する体制となっており、センター長の役割は全ての職員が理解している。虐待ケースについては、センター長が全件事実確認を行っている。	ア
6 一部の職員に業務が集中することなく、職員一人あたりの業務量が調整できている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 介護保険請求、実績報告書の作成など全職員が交代で行う事としており、業務が集中しないように配慮している。	ア 地区によって困難ケースが集中した場合は、別の地区の職員が対応する等、臨機応変な対応を調整すること。
7 センターとして抱えている事例や対処方法について相互に報告し合い、3職種が協働して「チーム」として検討するための工夫をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 困難ケースについて、包括内で事例検討会を実施し、専門性を活かしたアプローチができる様工夫している。緊急性や医療ニーズが高いケースは看護師と地区担当が同行訪問する等工夫している。	ア
③職員の人材育成			
8 職場内研修を適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 職場内研修開催回数(4)回 7月に主任CM連絡会が中心となり「令和6年度銚子市介護予防ケアプラン研修会」として、3時間研修を開催。研修終了後に包括内でも研修の振り返りを行いスキルアップを行った。8月に困難ケースの事例検討会、11月にBCPの見直しとして包括内で実施した。また、法人全体の取り組みとして、全ての介護サービス事業所に義務付けられている研修をオンラインによる個別研修で実施しており、12月に「感染症に関する研修」を実施し、今後は「虐待・身体拘束に関する研修」を予定している。	ア 来年度以降、虐待研修を参集型で実施する時には、日頃から虐待対応を実施している包括が積極的に研修内で発言をする等、権利擁護の知識・考え方の普及に務めること。
9 保健師又は看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員のそれぞれの専門性を高める人材育成の工夫が図られている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 職種別連絡会に毎回参加している。また今年度は、看護師職員が介護支援専門員試験に合格、専門職種以外の知識を高めるなどしている。	ア 職員全員が介護支援専門員の資格を取得できた。素晴らしい。今後、その知識を生かした活動を期待している。
10 職場外研修を必要に応じ受講し、内容を職場内に伝達している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 職場外研修受講延べ回数(4)回 おひとり様支援の手引き(6月)、在宅ケアマネジメントで行う家族支援の基本(11月)、令和6年度香取海浜地域認知症医療連携協議会(12月)、成年後見制度の概要と市民後見人令和7年2月(予定)外部研修に可能な限り参加するようにしている。参加後は、ミーティング時に報告の機会を作り、共有している。	ア 三職種の専門性を向上するための研修と、職種を超えて次のステップに進むための学びの両輪を目指した取り組みを継続して実施していくこと。
④運営における基本視点、その他			
11 公益的な機関として、公平で中立性の高い事業運営を行うことを十分理解し、業務において実践している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア ケアマネ選定の相談では、ケアマネ情報冊子を活用し、特定の事業所に偏らないよう配慮している。また、ケアマネクラブが作成した医療介護連携ハンドブックや自費レンタル可能な事業所のパンフレット、配食サービスのパンフレットなどを準備し、介護保険サービス以外の社会資源も本人、家族が複数の中から選択しやすいよう配慮をしている。	ア

12	地域包括支援センターの事業計画を、市の提示する目標や方針を踏まえて作成している。また、達成状況について、評価している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	地域包括ケアシステム推進計画、基幹型地域包括支援センターの事業計画、第9期介護保険事業計画に基づき、包括職員全員で参画から行い、上半期・年度末の年2回、進捗状況の評価をしている。	ア	
13	個人情報保護の重要性を認識し、個人情報保管の点検など取扱いについて適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	個人情報記載されている書類は、鍵のかかる書庫に保管し、取扱いに注意している。また、破棄する場合は、シュレッダーを使用し個人情報の漏洩を防いでいる。	ア	
14	事故や災害などの緊急事態が発生した場合に十分な対応策が図られる体制になっている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	法人及び包括内の緊急連絡網があり、体制は確保されている。包括内研修としてBCPの見直し(連絡先の変更など)を行った。	ア	

2 地域包括支援センターの運営等必須業務について

①総合相談・支援業務

15	＜地域におけるネットワークの構築＞ 民生委員、町内会、医療機関、商店など地域の関係者と顔の見える関係づくりを行うため、関係機関に出向きセンター機能の周知活動を実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	周知活動回数(25)回 民生委員の定例会や市民センターやこも浦、ドラッグストアにも包括のチラシの設置を行うなどして周知活動を行っている。	イ	チラシ配布だけでなく、地域ケア会議の出席を依頼したり、包括が講座を開催したりする等、積極的な活動を行うこと。
16	＜実態把握業務＞ 高齢者実態把握事業などにより、支援を必要とする高齢者の把握を行い必要な支援につなげている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	事業実施人数(18)人/支援者数(2)人 実態把握依頼者43名、訪問対象者37名、把握済み23名、拒否3名、支援者2名のうち1名は介護保険申請代行、1名は民生委員に繋ぐ。把握済みの高齢者は、元気な印象ではあるものの、買い物などの移動の困難さを感じており、今後支障をきたす恐れがある。また、防犯意識が高く、緊急連絡先を話しながらない高齢者も多い印象であった。	ア	今年度の実態把握事業を振り返り、来年度の対象者を検討する場で話ができるようにすること。
17	担当圏域の地域特性や高齢者のニーズを把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	地域特性・高齢者ニーズ 担当圏域には、入院できる医療機関がなく市内の中心にある病院を受診される方も多い。また、近所の商店以外にスーパーで買い物する方も多く、車の運転を辞めた場合は移動手段が問題と予想される。認知症への理解が低く、「まだ家族で看れる」と表面化する事なく、重症化してからの相談が多い。	ア	
18	＜総合相談支援業務＞ センターとして抱えている事例や対処方法について相互に報告し合い、職員全体が協働して支援方針の検討等ができています。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	適宜、センター内で抱えている事例に対して振り返りを行い、職員全体で支援方針について検討し、共有している。	ア	
19	地域包括支援センターに寄せられる相談をワンストップサービスとして受け、必要時、他機関と連携を図ることができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	主な連携先:医療機関・民生委員・SSS・社会福祉課 相談内容を包括内で検討し、支援方針・連携先を決定している。	ア	緊急ケースが発生した場合も対応できる様に、日頃から優先的に実施する業務は何か包括内で協議し、職員間で共有しておくこと。
20	高齢者福祉サービスや社会資源等の情報及び活用方法をセンター内で共有し、繋ぐことができている。また、必要により、個別支援計画を作成し、継続した支援を行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	高齢者福祉サービスや便利帳や自費ベッド、配食サービス等のパンフレットを準備し、センター内で共有している。継続した支援が必要と思われる方には、個別ファイルを作成し、支援に繋げている。	ア	

②権利擁護業務

21	＜成年後見制度などの活用＞ 高齢者の判断能力や生活状況等から、成年後見制度や日常生活自立支援事業(すまいる)などを利用する必要があるかを適切に判断し、対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	相談件数(実 4 / 延べ 49)人 市長申立て数 (1)人 本人の判断能力、認知機能の状況をアセスメントし、10月に1名を日常生活自立支援事業(すまいる)に繋いだ。	ア	包括内で判断に迷う場合は、早めに基幹型へ相談すること。
22	＜老人福祉施設等への措置の支援＞ 環境上及び経済的理由による措置として、養護老人ホーム等に関する相談を適切に実施し、必要に応じ市に情報提供している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	ア	相談件数(実 3 / 延べ 114)人 家事で自宅焼失による相談1件、精神疾患が疑われ在宅での生活が困難となった相談が1件、不定愁訴を訴え救急要請を繰り返す相談が1件。市と協力して対応に当たった。	ア	
23	＜高齢者虐待への対応＞ 養護者による高齢者虐待の通報受理、事実確認についてセンター長がスーパーバイズの役割を果たし、全職員が対応できる。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待通報受理件数(実 10 / 延べ 123)人 清水地区6件、明神地区2件、高神地区2件となっており、センター長が、スーパーバイズ・虐待ケースの把握をする為、センター長と担当地区の職員が対応にあたる事としている。	ア	センター長や社会福祉士が、具体的な事実確認の入り方等を最終判断して対応すること。
24	委託型センターとして、虐待の有無、緊急性について適切に判断し、迅速に対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待有判断数(実 7)人 身体的虐待(7)件、心理的虐待(4)件 通報受理後、48時間内に事実確認し、東部包括内で虐待の有無、緊急性については判断している。	ア	
25	関係機関との個別支援会議を開催し、関係者と役割分担し被害者及び養護者について適切に支援できるよう、コーディネートできている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	個別支援会議開催回数(1)回 個別支援会議の開催は1回であるが、担当CMと虐待が再発しないようアセスメントの見直しやサービス調整など連携を図っている。	イ	会議開催の大変さはあるが、介護サービスを利用しているケースは、原則ケース会議を開催すること。
26	施設従事者の虐待対応について、市と協力した対応ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当なし	エ	相談件数(実 0 / 延べ 0)人 今年度該当なし。	エ	

27	市の権限による対応が必要であると思われる場合(老人福祉法上のやむを得ない事由による措置、高齢者虐待防止法上の立入調査など)、市と連携した対応ができています。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	エ	やむ措置件数(0)件 今年度該当なし。	エ	
28	虐待台帳を作成し、管理者である社会福祉士が中心となり管理し、支援が終了したケースについて必要であれば、継続的、定期的な見守り等の対応をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待台帳登録ケース件数(10)件 支援が終了したケースは、死亡2名、施設入所2名であった。虐待解消の為に、新規に介護保険サービスを導入し、CMに繋いだケース1名。担当CM等に定期的に状況の確認を行ったケース1名。継続的な見守り体制の構築を行っている。	ア	
29	虐待の実態を把握し、発生要因の分析や再発防止に向けた取り組みを実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	主な具体的取組み 発生要因としては養護者の認知症状への理解が低く、認知症状による行動などに苛立ち、叩きなどの虐待が発生している。身体的虐待がもっとも多く、虐待が繰り返されているケースも多い。CMと連携を図りサービスの見直し等を行っている。また養護者支援として、他機関に繋ぐなど再発防止に努めている。	ア	再発ケースは特に発生要因を分析し、予防や早期発見に努める対応・関係者のネットワークを構築すること。
30	＜困難事例への対応＞ 困難事例を早期に見出し、関係者と連携し支援している。また、台帳を作成し、センター内で毎月ケースの振り返り、支援状況の共有等を行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	困難台帳登録ケース件数(3)件 ケースごとに確認の期間を設定し、状態の把握に努め、包括内で情報を共有している。	ア	困難台帳は支援の漏れを防ぐことが目的。どのケースを台帳に記入するのか、包括内で協議すること。台帳化する目安のフローが現状と合っていない場合は、来年度社会福祉士連絡会で協議すること。
31	＜消費者被害への対応＞ 消費者被害に関し、消費生活の相談窓口または警察署と連携し対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	ア	相談件数(実1/延べ4)人 7月にCMから相談あり。屋根の修理として120万円の契約をしてしまったとの事。CMと消費者センターに同行し、クーリングオフを行った。	ア	昨年度に続き、消費者被害対応を実施できていると評価する。来年度も関係者と連携した取り組みを期待する。
③包括的・継続的ケアマネジメント業務						
32	＜包括的・継続的なケア体制の構築＞ 地域の介護支援専門員が医療機関や民生委員など地域の関係機関と連携、協力できるような支援を実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	連携・協力を実施した回数(41)回 内訳は、民生委員との連携、協力支援が10件、医療機関との連携、協力支援が30件、社会福祉士との連携、協力支援が1件となっている。	ア	
33	＜地域における介護支援専門員のネットワークの活用＞ 介護支援専門員相互の情報交換を行う場を設置し、介護支援専門員同士のネットワークを構築している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	具体的な活動 てうけケアメクラブの医療介護連携チームとして、医療連携ハンドブックの有用性の検討や圏域内の東部CM連絡会で、CMの抱える問題についてグループワークを行い、地域課題の抽出を行った。	ア	
34	＜介護支援専門員に対する個別支援＞ 困難事例への支援について、個々の介護支援専門員に合わせた個別指導、相談対応を適切に行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	対応件数(8)件 困難事例としては、計上していないが、介護支援専門員個々の相談対応、助言は適切に行っている。	ア	
35	圏域別グループで構成される居宅介護支援事業所と協働し、資質向上、資源と災害、医療介護連携の3つのテーマについて取り組んでいる。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	てうけケアメクラブの医療介護連携チームとして、医療連携ハンドブックの有用性の検討や医療と介護の連携ツールの運用協力、医療の介護をつなぐ研修会の開催に向けて協力している。	ア	
36	介護支援専門員や介護関係者のニーズや課題を踏まえ、スキルアップや連携強化を目的とした地域ケア実務者会議を適切に開催している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	実務者会議テーマ：「ごみ屋敷、高齢者のペット問題、身寄りのない高齢者など多問題を抱えた高齢者を地域で考える」参加者：57名 市内の全事業所に参加案内を通知したが、参加者57名のうち、7名のみが介護事業所に所属する職員で、参加者のほとんどが、介護支援専門員であった。	ア	包括やケアマネが抱える現在の課題に即したテーマを選定した開催が出来ていた。受講者からも好評の声が多く、来年度以降の取り組みも期待する。
④地域ケア会議推進事業						
37	支援困難な事例等に関する地域ケア個別会議について、会議を行う意義や目的を職員全員が理解し、適切に会議を開催している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	地域ケア個別会議実施回数(3)回 地域ケア会議の意義や目標については、理解できている会議は適切に開催できている。	ア	今後、開催回数が増える取り組みを実施していくこと。
38	地域ケア個別会議により、個別課題の解決の他、担当圏域の高齢者のネットワークづくりや地域課題を把握することができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	ネットワークづくり会議回数(1)回 地域課題発見会議回数(1)回 地域の高齢者を担当するCM4名とサービス事業所の管理者1名で地域のネットワークづくりのための地域ケア会議と圏域内のCM12名と地域課題発見のための地域ケア会議を一回ずつ開催。	ア	ネットワークづくりと地域課題発見は包括の重要な業務であるため、積極的に開催していくこと。
39	地域ケア個別会議から明らかになった課題を集約し、基幹型センターや市に提言し、資源開発や政策形成に寄与している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	イ	身寄りの無い高齢者や身元引き受け人不在、認知症が進行し、金銭管理が困難となった高齢者の問題など相談を通してある程度、課題はあがっているが、市への提言まで至っていない。	イ	把握できた課題を整理し、市の会議等で提言していくこと。
⑤介護予防ケアマネジメント、介護予防支援業務						
40	介護予防支援等について、介護予防の視点を理解し、自立にむけた介護予防サービス計画の作成、サービス担当者会議、モニタリング、評価など一連のプロセスを適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	自立支援に向けた視点でケアプランを作成し、モニタリング、評価等に一連の流れも適切に行えている。	ア	
41	自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントを、センター職員及び委託する事業所に周知している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	7/19令和6年度親子市介護予防ケアプラン研修会を開催し、自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントを市内の介護支援専門員に周知した。	ア	

42	ケアプランにおいて、多様な地域の社会資源を位置づけているか。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	位置づけた社会資源(おもなもの)現在作成してあるケアプランには、プラチナ体操のみとなっているが、必要に応じて配食サービス、自費ベッド、緊急通報装置など地域の社会資源をケアプランに位置づけている。	ア	ゴミ出しや見守りなど、インフォーマルサービスが位置づけられる様に、SCと連携しながら資源把握に務めること。
43	居宅介護支援事業所への一部委託については適切な件数とし、介護支援専門員に対し計画の確認や助言指導を行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	直営件数(13)件 委託件数(213)件 / 12月給付管理分 事業対象者直営件数(8)名 委託件数(2)件 委託件数が偏らないようにし、委託時は事業所の担当件数の確認を行い、介護支援専門員の負担とならないように留意している。	ア	

3 市と協力して実施する事業

①在宅医療・介護連携推進事業

44	担当圏域の住民が活用できる医療・介護サービス資源を把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	圏域内の医療・介護サービス資源については把握しており、窓口相談時には、パンフレット等を活用し、地域住民に説明している。	ア	
45	通常業務の中で主治医など医療関係者と連携し、医療と介護の連携の課題を把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	東部包括が行う退院支援等の連携は問題なく行っているが、病院によっては連携窓口が統一されていないなどの課題や地域のケアマネが医療機関や主治医へ連携する場合の苦意思議を持っている事や連絡方法など、課題はある程度、把握している。	ア	

②認知症総合支援事業

46	市民や関係者から認知症の疑いなど初期の相談を適切に受けられるよう工夫している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	主な具体的な工夫(2つまで) アルツハイマー月間に合わせ、パネル展示で相談窓口の周知を行った。また、認知症サポーター養成講座で相談窓口の周知を行った。	ア	
47	認知症高齢者の支援について、認知症初期集中支援チームとチーム員会議などを通じ、適切に連携を図っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	イ	チームへの相談件数(案0件) 介護支援専門員と連携しサービス開始後、認知症高齢者の状態が落ち着く事も多く、認知症初期集中支援チームに支援依頼をしたケースは無かった。しかし、認知症普及啓発などでは協働してパネル展示を行うなど連携は取れている。	イ	包括内で認知症に関する相談を整理し、チーム対応を要する方はいなかったか、振り返ること。
48	認知症カフェの活動や立ち上げの支援を適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ウ	認知症カフェとの連携回数(0)回 認知症カフェより活動支援の依頼は無かったが、未実施。圏域内で、新規立ち上げを希望される団体は無く立ち上げ支援も行っていない。	ウ	依頼が来るのを待つのではなく、自分たちから関わっていく様に変容すること。
49	認知症サポーター養成講座など認知症の啓発普及に関する取り組みを実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	講座開催回数(3)回 愛宕町地域住民(1回)、千葉科学大学(2回)に認知症サポーター養成講座を開催したほか、アルツハイマー月間に合わせて、こも浦荘、市民センターに認知症普及啓発を行った。3/27銚子商工信用組合職員向けの認知症サポーター養成講座を予定している。	ア	

③生活支援体制整備事業

50	圏域の生活支援コーディネーター(SC)と連携した地域活動をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	圏域内のCM連絡会やプラチナ体操団体を一緒に訪問するなどして、地域把握に努めた。今後は、要支援1・2の認定を受けて更新せず認定切れとなった高齢者を対象に、SCが実態把握調査を行う事としており、調査協力を行っていく。	ア	
51	第1層協議体の地域支え合い推進会議や第2層協議体の西部ふれあい会に積極的に参加し、地域の課題把握や社会資源の報告等をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	地域支え合い推進会議には、毎回参加している。令和6年度より生活支援・住まい専門部会と介護予防・健康づくり専門部会が統合。生活支援体制整備、生活支援コーディネーターの活動方針等について協議した。	ア	

④一般介護予防事業

52	全職員が介護予防の普及啓発を実施できている	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	居住地の確認後、担当地区の職員が、窓口相談の対応にあたり、相談内容に合わせて、介護予防の普及も行っているため、全職員が実施出来ていると判断。	ア	
53	圏域内で銚子プラチナ体操などの通いの場が増えるよう活動に工夫している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	東部包括のチラシの裏面にプラチナ体操を印刷し、周知活動を行う他、窓口相談時、民生委員の定例会など地域住民への周知を行っている。	ア	
54	全職員が圏域内の高齢者に介護予防の啓発(目指せ元気シニア講座など)を実施できるスキルを持っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	介護予防講座開催回数(2)回 全職員が開催のスキルはある。	ア	
55	介護予防に資する活動グループ(プラチナ団体など)の育成及び支援ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	プラチナ体操新規立ち上げ団体数(3)団体 活動団体支援回数(30)回 今年度、3団体立ち上げ支援を行った。	ア	

4 その他の業務

56	地域密着型サービス事業所の運営推進会議に参加し、サービスの向上及び地域に開かれたサービスとなるよう働きかけている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	運営推進会議では、事故防止やサービス向上に向けた助言を行った。	ア
57	毎月の業務実績について、提出期限を遵守し関係書類を市に提出している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	毎月10日までの期日に遅れることなく、実績報告行っている。	ア

令和6年度の評価を通して共有された課題及び成果を上げていること

<成果>

- ①今年度、プラチナ体操団体の立ち上げ支援を3団体行い、事業計画数以上の成果となった。
- ②圏域内のCMの支援困難ケースを抽出し、地域ケア実務者会議で研修に繋げた。
- ③今まで開催出来なかったネットワークづくりの為に地域ケア会議、地域課題発見機能の地域ケア会議の開催ができた。
- ④例年開催している千葉科学大学以外に地域の住民向けに認知症サポーター養成講座が開催できた。
- ⑤看護職として配置している職員が、介護支援専門員の資格を取得。人材育成が進み、専門性を高める事ができた。

<課題>

- ①認知症治療薬を内服していても、「生活に支障がない」「まだ家族で看れる」など認知症に関する病識が希薄で、症状が重度化してから相談が持ち込まれる事が多い。
- ②病院受診されておらず、認知症ではなく、精神疾患が疑われるが、介護保険の適用外となる高齢者の相談が増えている。
- ③身寄りの無い高齢者、身元引き受け人不在の高齢者が増加しており、入院や施設入所できないといった相談が増えている。
- ④虐待が繰り返され、分離・死別以外で終結となるのが難しい。

令和7年度、取り組む課題と課題解決のための対応

<取り組む課題>

- ①認知症の初期相談件数が増加するように周知活動を行う。
- ②圏域内のニーズ把握。
- ③市内の主任介護支援専門員の活動支援。

<対応>

- ①認知症の初期相談件数が増加するように周知活動を行う。
 - ・キャラバンメイトと協働し、市民センター職員、金融機関、町内会等に認知症サポーター養成講座を開催する。
 - ・圏域内の認知症カフェと協力し地域住民の認知症の理解を深め、初期相談件数の増加を目指す。
 - ・認知症初期集中支援チームが適切に稼働するよう、相談内容、支援内容の見直しを行い、連携方法を見直す。
- ②圏域内のニーズ把握。
 - ・実態把握調査の対象、調査内容を再検討し、高齢者・地域課題の掘り下げを行う。
 - ・要支援1・2の認定を受けて更新されず認定切れとなった高齢者を対象に、SCが実態把握調査を行う事としており、調査協力を行い、圏域内のニーズを可視化していく。
 - ・地域ケア会議の回数を重ね、高齢者個人の課題、地域の課題をより明確にしていく。
- ③市内の主任介護支援専門員の活動支援。
 - ・居宅介護支援事業所の管理者要件でもあり、主任介護支援専門員が増加しているが、主任介護支援専門員の役割が果たされていない。「ケアマネの指導・育成」「地域ケア会議の開催」など地域包括ケアシステム構築に寄与する活動を支援していく。
 - ・とうしケアマネクラブと協働し、とうしケアマネクラブ主催の研修会が開催できるような支援を行う。

総評(基幹型が記載)

優れている点

- ・東部包括主催の地域ケア実務者会議では、包括や介護支援専門員等が抱える課題をテーマとした内容であり、講師も現場の職員が直面している課題に即した話を盛り込んでいた。それは東部包括が講師と綿密な事前打ち合わせを行った成果だと考えられる。今後も実りのある学びの場の開催を期待する。
- ・虐待発生時の迅速な事実確認が出来ている。虐待シートの記録も、どの職員も端的に必要な情報を記入するスキルが向上している。
- ・包括職員全員が介護支援専門員の資格取得が出来た。包括支援センターの業務を行う上で必要な知識を得るために、良い取り組みであると評価する。

次のステップに向けてを期待したい取り組み

- ・民生委員や町内会等の地域の支援者との関係性を深めるために、ネットワーク構築や地域課題発見を目的とした地域ケア会議の開催や介護予防・認知症予防や権利擁護(虐待防止や早期発見、後見制度の紹介等)の講座開催等、よりステップアップした取り組みを期待する。
- ・認知症の相談窓口であることの普及啓発を進め、オレンジカフェ等の地域の認知症支援に関わっている方々と連携を図りながら、認知症の初期段階からの相談・介入が出来る様に工夫していくこと。また、認知症初期集中支援チームに必要なケースを繋ぎ、連携体制を構築出来ることを期待する。
- ・深刻度の重い虐待や再発を繰り返す虐待等、より困難性が強いケース対応を実施出来る様に、職員それぞれの更なるスキルアップを目指し、専門性の強い研修の受講や事例検討・スーパービジョンの実施等していくこと。

令和6年度委託型地域包括支援センター業務チェックシート

<センター記入者>

銚子市(中央)地域包括支援センター	センター長 岩瀬 史
-------------------	------------

*このシートを作成するにあたり、センター職員全員で協議し、共通認識を図ってください。「選択理由及び取り組み状況等」は必ず記載してください。

1 地域包括支援センターの運営体制

チェック項目	自己評価	選択理由及び取り組み状況等	行政評価
①施設設備、業務体制			
1 窓口開設日、窓口開設時間は適切であり、24時間連絡可能な体制を確保し、緊急時には速やかに対応している。	ア 満たしている イ ほぼ満たしている ウ 満たしていない	ア 開設時間は平日8:30～17:15。土日祝日、年末年始、夜間は電話対応可能な体制を整えている。緊急時には、包括内の連絡網も作成しており、連絡対応、共有することができている。	ア
2 苦情に対し、誠実に対応し再発防止に努めている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当なし	エ 苦情対応件数(実 0 / 延べ 0 件) 今年度該当ケースなし。	エ
②職員体制			
3 センターの人員配置が仕様書の規定を満たしている	ア 満たしている イ ほぼ満たしている ウ 満たしていない	ア 看護師1名、社会福祉士2名、主任介護支援専門員1名、専従の事務職1名を配置している。	ア
4 開設時間内は、専門職及び事務職が必ず事務室内に残り、相談業務に対応できる体制になっている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 開設時間は、事務職を含め必ず1名が残り、緊急時や窓口相談の場合、対応する専門職を決め、相談を受けられる体制を整えている。	ア
5 管理者(センター長)の役割が明確であり、職員が理解している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 管理者の役割は明確で、全職員は理解をしており、管理者への報告、連絡、相談を行っている。	ア
6 一部の職員に業務が集中することなく、職員一人あたりの業務量が調整できている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 管理者は各業務の状況把握に努め、専門性の高いケースや困難ケース、虐待対応については必要に応じて調整をしている。	ア
7 センターとして抱えている事例や対処方法について相互に報告し合い、3職種が協働して「チーム」として検討するための工夫をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 毎朝のミーティング、その他職員が必要とした時には声をかけ、専門職間で意見交換を行い支援方向性を決定。必要な支援に結びつくようにしている。	ア チーム内で共有を引き続き行っていくこと。
③職員の人材育成			
8 職場内研修を適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 職場内研修開催回数(2/4)回 「報酬改定」と「プラチナ体操立ち上げ」についてを実施した。今後、「日常生活自立支援事業」「事例検討」についてを予定している。また、法人内研修にも参加している。	イ 職種をこえた情報共有の充実を期待したい。
9 保健師又は看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員のそれぞれの専門性を高める人材育成の工夫が図られている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 各専門職連絡会に参加し、市内事業所向けの研修の企画、運営も行っている。全職員が他領域の専門分野にも対応できるように、各専門職を中心にして活動をしている。	ア
10 職場外研修を必要に応じ受講し、内容を職場内に伝達している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 職場外研修受講延べ回数(10)回 積極的にオンライン研修を活用。感染症、報酬改定、リハビリ、セルフネグレクト、高齢者虐待など。受講した研修内容について包括内で閲覧、共有をしている。	ア
④運営における基本視点、その他			
11 公益的な機関として、公平で中立性の高い事業運営を行うことを十分理解し、業務において実践している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 全職員、委託型包括支援センターのあり方を理解し、全ての業務において中立公平であるよう努めている。	ア
12 地域包括支援センターの事業計画を、市の提示する目標や方針を踏まえて作成している。また、達成状況について、評価している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 委託仕様書に基づき、委託包括内で協議し事業計画を作成、中間評価で達成状況・課題についても基幹型と共有。評価について全職員で取り組んでいる。	ア
13 個人情報保護の重要性を認識し、個人情報保管の点検など取扱いについて適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 個人情報の重要性を認識し、取り扱いについては最大限注意を払いつつ、鍵のかかる書庫での保管管理を徹底している。	ア
14 事故や災害などの緊急事態が発生した場合に十分な対応策が図られる体制になっている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア BCP作成済み。法人内部とは緊急時の連絡体制を整えている。また、直営の担当利用者については、緊急連絡先を作成している。	ア

2 地域包括支援センターの運営等必須業務について

①総合相談・支援業務					
15	＜地域におけるネットワークの構築＞ 民生委員、町内会、医療機関、商店など地域の関係者と顔の見える関係づくりを行うため、関係機関に出向きセンター機能の周知活動を実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	周知活動回数(76)回 民生委員、町内会、各医療機関、各相談機関、スーパー、清川町いきいきサロン、福祉祭り、介護支援専門員やサービス事業所、警察、消防など機会があればその都度周知活動を行っている。	ア
16	＜実態把握業務＞ 高齢者実態把握事業などにより、支援を必要とする高齢者の把握を行い必要な支援につなげている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	事業実施人数(62)人/支援者数(0)人 事前把握済(6)把握済(39)拒否(6)不在(11) 緊急時の対応、買い物、経済面などで不安があるなど聞き取ったが、必要な支援に繋いだケースはなかった。	ア
17	担当圏域の地域特性や高齢者のニーズを把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	車を運転している方たちは、免許を返納してからの生活に不安を感じている方が多く、車がないと買い物に行けなくなると聞き取る。また、車がない方たちは、歩いて行ける範囲の近くの場所で、出かける場所が少ないのに加え、青年館などが更に減ってきている。	ア 実態把握や個別支援から地域課題を検討できるように期待する。
18	＜総合相談支援業務＞ センターとして抱えている事例や対処方法について相互に報告し合い、職員全体が協働して支援方針の検討等ができています。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	検討が必要なケースについては、専門職からの助言をもとに全員で協議し、対応方針を検討。また、必要に応じて基幹型とケースを共有、助言をもらいながら支援方法を決定している。	ア 緊急時、地区を越えての応援体制を充実に期待する。また、支援期間があいたケースは定期評価を行うこと。
19	地域包括支援センターに寄せられる相談をワンストップサービスとして受け、必要時、他機関と連携を図ることができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	主な連携先 鉾田市役所障害支援室、社会福祉課、健康づくり課、鉾市サポートセンター、社会福祉協議会、海匠ネットワーク、各医療機関、保健所など。	ア
20	高齢者福祉サービスや社会資源等の情報及び活用方法をセンター内で共有し、繋ぐことができています。また、必要により、個別支援計画を作成し、継続した支援を行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	高齢者福祉サービス、社会資源、施設の空き状況など、センター内で共有。必要に応じて情報提供している。個別支援計画はその都度、方針対応を明確にして支援に繋いでいる。	ア
②権利擁護業務					
21	＜成年後見制度などの活用＞ 高齢者の判断能力や生活状況等から、成年後見制度や日常生活自立支援事業(すまいる)などを利用する必要があるかを適切に判断し、対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	相談件数(実 6 /延べ 26)人 市長申立て数(1)人 各制度利用について、地域ケア会議を開催するなどして、関係者間で都度検討し、基幹型と共有しながら対応している。	ア 速やかに関係機関と連携を行うことで、その後の市で行う事務処理が円滑に行うことができた。今後も協力を願いたい。
22	＜老人福祉施設等への措置の支援＞ 環境上及び経済的理由による措置として、養護老人ホームに関する相談を適切に実施し、必要に応じ市に情報提供している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	ア	相談件数(実 1 /延べ 42)人 救護施設への入所に向け、ケアマネジャー、介護サービス事業所、社会福祉課、高齢者福祉課と連携し対応をした。	ア
23	＜高齢者虐待への対応＞ 養護者による高齢者虐待の通報受理、事実確認についてセンター長がスーパーバイズの役割を果たし、全職員が対応できる。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待通告受理件数(実 8 /延べ 8)人 地区担当を中心に受理、事実確認を行う。センター長を中心に全員で協議、迅速に対応できるよう心掛けている。	ア 関係機関とセーフティネットをつなぐことで、虐待の早期発見ができています。
24	委託型センターとして、虐待の有無、緊急性について適切に判断し、迅速に対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待有判断数(実 5)人 (身体5、心理2、ネグレクト1、経済1) 事実確認を基に虐待の有無、緊急性の判断を全員で協議しながら対応している。	ア
25	関係機関との個別支援会議を開催し、関係者と役割分担し被害者及び養護者について適切に支援できるよう、コーディネートできている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	個別支援会議開催数(6)回 担当介護支援専門員やサービス事業所、障害支援室などの関係者と連携を図り、情報共有、方向性や役割、期間などを検討・決定している。	ア 他機関に支援を繋いだ後も、継続的に支援状況を把握し、必要時支援をお願いしたい。
26	施設従事者の虐待対応について、市と協力した対応ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	エ	相談件数(実 0 /延べ 0)人 今年度該当するケースはなかった。	エ
27	市の権限による対応が必要であると思われる場合(老人福祉法上のやむを得ない事由による措置、高齢者虐待防止法上の立入調査など)、市と連携した対応ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	ア	やむ措置件数(1)件 基幹型包括支援センターと共に、自宅、警察、施設など支援対応するケースが1件あった。	ア
28	虐待台帳を作成し、管理者である社会福祉士が中心となり管理し、支援が終了したケースについて必要であれば、継続的、定期的な見守り等の対応をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待台帳登録ケース件数(8)件 社会福祉士を中心に、定期的に全員でケースの進捗状況、支援方法の確認を行っており、台帳については3か月に1度、基幹型包括支援センターと確認を行っている。	ア

29	虐待の実態を把握し、発生要因の分析や再発防止に向けた取り組みを実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	イ	主な具体的取組み 社会福祉士連絡会にて行っているが、委託包括内で、独自に検討・分析するまでには至っていない。	イ	
30	＜困難事例への対応＞ 困難事例を早期に発見し、関係者と連携し支援している。また、台帳を作成し、センター内で毎月ケースの振り返り、支援状況の共有等を図っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	イ	困難台帳登録ケース件数(4)件 虐待台帳と同様に、定期的に全員で確認・共有しているが毎月はできていない。動きがあれば都度対応を共有している。	イ	
31	＜消費者被害への対応＞ 消費者被害に関し、消費生活の相談窓口または警察署と連携し対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	エ	相談件数(実 0 /延べ 0)人 ケース発生はなかったが、警察と連携し発生予防に努めている。	エ	
③包括的・継続的ケアマネジメント業務						
32	＜包括的・継続的なケア体制の構築＞ 地域の介護支援専門員が医療機関や民生委員など地域の関係機関と連携、協力できるような支援を実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	連携・協力を実施した回数(24)回 独居高齢者について介護支援専門員と民生委員を繋ぐ支援、医療機関と新規介護支援専門員を繋ぐ支援などを関係者間、連携をとりつつ実施している。	ア	
33	＜地域における介護支援専門員のネットワークの活用＞ 介護支援専門員相互の情報交換を行う場を設置し、介護支援専門員同士のネットワークを構築している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	具体的な活動 主任ケアマネ連絡会にて、要支援のプラン作成についての研修会を開催。3月にも圏域のケアマネ連絡会の開催を予定している。また、てうしケアマネクラブに参加し、活動をしている。	ア	
34	＜介護支援専門員に対する個別支援＞ 困難事例への支援について、個々の介護支援専門員に合わせた個別指導、相談対応を適切に行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	対応件数(実 17 /延べ 139)件 介護支援専門員からの相談には、情報共有を図り、課題を明確にしたあと、共に方向性を検討。地域ケア会議の開催、支援の役割分担など対応しながら、介護支援専門員の後方支援にあたっている。	ア	対応件数が多いことは、ケアマネと信頼関係が築けている。また、ケアマネと包括で支援者の役割分担をして、手厚くケアマネの支援ができています。
35	圏域別グループで構成される居宅介護支援事業所と協働し、資質向上、資源と災害、医療介護連携の3つのテーマについて取り組んでいる。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	資質向上グループとして、10月に福祉機器展の見学ツアーを実施。3月には研修を計画中。	ア	
36	介護支援専門員や介護関係者のニーズや課題を踏まえ、スキルアップや連携強化を目的とした地域ケア実務者会議を適切に開催している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	テーマ:高齢者の栄養 対象:市内医療・介護関係者 2月開催予定であり、準備を進めている。	ア	
④地域ケア会議推進事業						
37	支援困難な事例等に関する地域ケア個別会議について、会議を行う意義や目的を職員全員が理解し、適切に会議を開催している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	地域ケア個別会議実施回数(5)回 会議の目的を全員が理解しており、職員それぞれが必要時に開催している。	ア	
38	地域ケア個別会議により、個別課題の解決の他、担当圏域の高齢者のネットワークづくりや地域課題を把握することができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	ネットワークづくり会議回数(1)回予定 地域課題発見会議回数(1)回予定 3月に飯沼地域民生委員定例会へCMと参加、圏域のCMとSCと協働で会議開催を計画。	ア	個別の支援から地域の課題発見へつなぐことに期待する。
39	地域ケア個別会議から明らかになった課題を集約し、基幹型センターや市に提言し、資源開発や政策形成に寄与している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	介護の必要な身寄りのない高齢者の施設入所が難しく、対応に苦慮するケースが数件あった。	ア	市と連携の上、課題を共有し、より良い対応方法を構築していけるよう市と共に務めること。
⑤介護予防ケアマネジメント、介護予防支援業務						
40	介護予防支援等について、介護予防の視点を理解し、自立に向けた介護予防サービス計画の作成、サービス担当者会議、モニタリング、評価など一連のプロセスを適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	介護予防の視点を理解し、アセスメントから一連のプロセスを適切に実施している。	ア	
41	自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントを、センター職員及び委託する事業所に周知している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	今年度、包括主任ケアマネ連絡会にて市内介護支援専門員向けに、介護予防のケアプラン作成についての研修を開催した。	ア	
42	ケアプランにおいて、多様な地域の社会資源を位置づけているか。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	位置づけた社会資源(おもなもの) 配食サービス、民生委員、近隣住民、ゴミ出し、プラチナ体操、	ア	
43	居宅介護支援事業所への一部委託については適切な件数とし、介護支援専門員に対し計画の確認や助言指導を行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	直営件数(27)件 うち事業対象者(6)件 委託件数(181)件 うち事業対象者(1)件/12月給付管理分 「鎌子市自立支援・重度化防止に向けた介護予防ケアマネジメントの手引き」を活用しながら行っている。	ア	利用者の自立に向けた計画になっているか確認を行い、ケアマネの資質向上のための研修を実施に努めること。

3 市と協力して実施する事業

①在宅医療・介護連携推進事業

44	担当圏域の住民が活用できる医療・介護サービス資源を把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	日頃より、関係者間のやり取りの中で、各医療機関についての特徴や介護サービスの空き状況、特徴などを把握し、「やさしさ便利帳」なども用いながら情報の提供をしている。	ア	
45	通常業務の中で主治医など医療関係者と連携し、医療と介護の連携の課題を把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	各医療機関とは、すでに連携がとれており、必要に応じて役割分担をしながら必要な支援を行っている。	ア	

②認知症総合支援事業

46	市民や関係者から認知症の疑いなど初期の相談を適切に受けられるよう工夫している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	主な具体的な工夫(2つまで) オレンジシートを活用してかかりつけ医との医療連携を図る。 民生委員定例会、アルツハイマー月間など折に触れ認知症への啓発活動を行っている。	ア	
47	認知症高齢者の支援について、認知症初期集中支援チームとチーム会議などを通じ、適切に連携を図っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ウ	相談件数(実 0/延べ 0)件 認知症高齢者の支援については、まず、初期集中支援チームの必要性を検討するが、家族や医療機関、介護支援専門員、介護サービス事業所と連携を図り、家族支援も含めた対応を行っている。	ウ	
48	認知症カフェの活動や立ち上げの支援を適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	認知症カフェとの連携回数(7)回 清川町オレンジ倶楽部の活動に参加、市内介護事業者のスタッフの無償ボランティアにより運営されており、作品作り、外出支援、イベント、介護相談等、地域の高齢者が楽しみ、通い、交流の場として定着している。	ア	認知症カフェに、認知症の方の参加が継続ができるように、引き続き本人、家族への取り組みに期待する。
49	認知症サポーター養成講座など認知症の啓発普及に関する取り組みを実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	講座開催回数(4)回 民生委員定例会、アルツハイマー月間展示(市立病院、公正図書館)、ラン伴への参加。認知症サポーター養成講座は地域や高校で実施。1月2月で小学校、中学校での開催準備を行っている。	ア	幅広い年代に認知症の普及啓発が行えるよう今後も期待する。

③生活支援体制整備事業

50	圏域の生活支援コーディネーター(SC)と連携した地域活動をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	地域の中で行われる、プラチナ体操や民生委員定例会と一緒に参加をしている。	ア	
51	第1層協議体の地域支え合い推進会議や第2層協議体の西部ふれあい会に積極的に参加し、地域の課題把握や社会資源の報告等をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	イ	中央圏域では第2層協議体はないが、来年度での構築に向けてSCと取り組んでいる。	イ	来年度は、第2層協議体の立ち上げに向け、SCの協力をお願いしたい。

④一般介護予防事業

52	全職員が介護予防の普及啓発を実施できている	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	全職員、介護予防の重要性を認識しており、今年度は「フレイル予防について」講話をプラチナ交流会で実施、実務者会議でも実施予定となっている。	ア	
53	圏域内で銚子プラチナ体操などの通いの場が増えるよう活動に工夫している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	地域に向かう際には、チラシを配るなどしてプラチナ体操の周知を行っているが、地域の中で集まることのできる場(青年館や集会所)が減ってきていることもあり、なかなか成果が出ない。	ア	プラチナ体操を実施していない町内で新規に立ち上がることに期待する。
54	全職員が圏域内の高齢者に介護予防の啓発(目指せ元気シニア講座など)を実施できるスキルを持っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	介護予防講座開催回数(1)回 包括内研修などで、全職員が対応できるようにしている。	ア	
55	介護予防に資する活動グループ(プラチナ団体など)の育成及び支援ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	プラチナ体操新規立ち上げ団体数(1)団体 活動団体支援回数(40)回 看護職員が中心となり、交流会をはじめ、体力測定や理学療法士との訪問、バンドやおもいCDの追加、歌詞カードの作成、各団体への様々な周知活動、活動状況の確認など多岐に渡る支援を行っている。	ア	

4 その他の業務

56	地域密着型サービス事業所の運営推進会議に参加し、サービスの向上及び地域に開かれたサービスとなるよう働きかけている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	圏域内6か所(8事業所)の運営推進会議に出席。意見交換や事業所での取り組みに参加するなどして、地域の方とも関係性を築くことができている。	ア	
57	毎月の業務実績について、提出期限を遵守し関係書類を市に提出している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	毎月、提出期限を守り提出している。	ア	

令和6年度の評価を通して共有された課題及び成果を上げていること

＜成果＞

- ・8月から新たに社会福祉士1名が配置となり、専門職4名事務職1名体制での稼働となっており、内外の研修に参加しスキルアップを図っている。
- ・地域に出向く機会(民生委員定例会、医療機関、オレンジカフェ、アルツハイマー月間、大洋教習所高齢者講習、いきいきサロンなど)での周知の他、郵便局、圏域内のスーパーに包括支援センターのチラシを貼ってもらい周知を行うことができた。
- ・虐待が疑われるケースでは、困難ケース同様、基幹型包括支援センターと各関係者、委託包括が連携して協議、対応することができている。
- ・成年後見制度の市長申し立ては1件、市と協力して準備することができている。
- ・包括主任ケアマネ連絡会にて、予防プランの研修を開催。てうしケアマネクラブの活動にも参加している。
- ・直営担当件数は多少の増減はあるが、担当件数は維持している。
- ・圏域担当SCと一緒に地域に出向き、SCの周知を行った。
- ・プラチナ体操団体1件新規に立ち上がり、もう1件は一度解散となるも再開することができた。包括内でも地域の中で活動団体を増やしたい場所の検討も行った。
- ・プラチナ体操団体向けに、交流会の企画開催、体力測定、さまざまな周知活動、プラチナ体操プラスの実施など多岐に渡る支援をおこなった。
- ・主任ケアマネ連絡会、社会福祉士連絡会で「介護予防プラン」「高齢者虐待」についての研修を開催できた。

＜課題＞

- ・2層のSCなどと共に地域で必要な社会資源の把握までに至っていない。
- ・対象者を変更して行った実態把握事業、「拒否」が11%と過去3年と比較すると最も多くなっている。反対に「不在」は20%であり、対象者が絞られたからか過去と比較すると半分ほどの割合となった。拒否や不在者の割合を減らすためにはどうしていけば良いか考える。
- ・地域の中で、地域住民が集まる場所(集会所)が次々と閉鎖となってきており、プラチナ体操などが集まる場所がなくなってきた。それにより、元気に外出していた人が閉じこもり傾向になってしまう方が出てきている。
- ・てうしケアマネクラブや(主任)介護支援専門員などの専門職組織の活動が充実したものとなるような後方支援の方法を考えていく。

令和7年度、取り組む課題と課題解決のための対応

＜取り組む課題＞

- ①第2層での活動について、取り組むことを明確にしていく。地域住民が集まれる場所を増やすなど、社会資源を見出す。
- ②(主任)介護支援専門員の活動やてうしあまねクラブの後方支援をどのように盛り上げていくか検討し実行していく。
- ③詐欺などが横行する中、実態把握事業を含め安心して訪問を受けてもらえるような方法を検討する。

＜対応＞

- ①基幹型包括支援センター、圏域のSCと共に協議し実行する。
- ②包括主任ケアマネ連絡会にて、検討し実行する。
- ③委託内で検討していく。

総評(基幹型が記載)

優れている点

- ・虐待、困難事例など突発的に問題が発生するケースがとて多かったが、センター内で協議後、基幹型へ報告・相談も速やかであった。その後のケース支援がスムーズに行えている。
- ・センター長を中心に3職種の特性を活かしながら、ケース支援ができています。
- ・多くのケアマネから相談を受け、課題の共有ができ、ケアマネと包括の役割分担ができている。ケアマネと顔の見える関係づくりができ、信頼関係が築かれていると評価する。

次のステップに向けてを期待したい取り組み

- ・権利擁護支援者の視点をもちながら、ケアマネに対して、必要な情報提供や助言を行えるよう後方支援を期待する。
- ・認知症初期支援チームが活性化するように、認知症の相談内容をまとめ、より良い連携方法を基幹と検討できるような体制を期待する。

令和6年度委託型地域包括支援センター業務チェックシート

<センター記入者>

銚子市西部地域包括支援センター	センター長 峯岸 正樹
-----------------	-------------

*このシートを作成するにあたり、センター職員全員で協議し、共通認識を図ってください。「選択理由及び取り組み状況等」は必ず記載してください。

1 地域包括支援センターの運営体制

チェック項目	自己評価	選択理由及び取り組み状況等	行政評価
①施設設備、業務体制			
1 窓口開設日、窓口開設時間は適切であり、24時間連絡可能な体制を確保し、緊急時には速やかに対応している。	ア 満たしている イ ほぼ満たしている ウ 満たしていない	ア 営業日時(平日8:30-17:30)で運営をしており、営業時間外については、センター長携帯転送電話での連絡が24時間可能な体制をとっている。時間外連絡の中で必要に応じて各担当者へ管理者から連絡が入る体制をとっている。	ア
2 苦情に対し、誠実に対応し再発防止に努めている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当なし	エ 苦情対応件数(実 0/延べ 0 件) 苦情については、法人のマニュアルに沿って対応をし、再発防止に努めるようにしている。	エ
②職員体制			
3 センターの人員配置が仕様書の規定を満たしている	ア 満たしている イ ほぼ満たしている ウ 満たしていない	ア 包括開設時、市から承認を受けた時点と変更なし(主任ケアマネ2名、保健師1名、社会福祉士2名)。	ア
4 開設時間内は、専門職及び事務職が必ず事務室内に残り、相談業務に対応できる体制になっている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 一人は事務所に残り相談業務等に対応している。相談訪問時もセンター職員間で連絡が取れるように対応している。	ア
5 管理者(センター長)の役割が明確であり、職員が理解している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 管理者の役割について職員は理解している。	ア
6 一部の職員に業務が集中することなく、職員一人あたりの業務量が調整できている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 一職員に業務が偏らないように地区担当にとらわれず、状況に応じて割り振り分担して対応している。	ア
7 センターとして抱えている事例や対処方法について相互に報告し合い、3職種が協働して「チーム」として検討するための工夫をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 朝礼等を活用しながら対応している職員だけでなく、包括内で情報共有。その都度、経過に合わせても適切な支援について職員間で確認しながら協議対応している。	ア 引き続き、職員間で共有し、チームで対応できるようにすること。
③職員の人材育成			
8 職場内研修を適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 職場内研修開催回数(12)回 職種別連絡会は職種人数ごとに参加できた。職場内研修は、外部研修内容や職種ごとで実施した内容の情報の伝達や意見交換を実施している。年間計画を元に毎月開催できた。地域ケア会議の開催後に包括内でも包括内研修としている。	ア 計画通りに毎月の開催ができていることを評価する。継続を期待したい。
9 保健師又は看護師、社会福祉士、主任介護支援専門員のそれぞれの専門性を高める人材育成の工夫が図られている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 職種別研修会に積極的に参加している(業務内・業務外・自己研修)。年間計画と合わせ業務調整の中で連絡会や地域の他職種と情報交換の中でスキルアップしている。	ア
10 職場外研修を必要に応じ受講し、内容を職場内に伝達している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 職場外研修受講延べ回数(43)回 研修内容によっては、職員へ情報提供しながらお互いに参加や共有している。銚子市事例検討会、神栖市法定外研修、医療・保健・福祉関連のオンラインでの研修会に参加、現地研修で成年後見、認知症キャラバンメイト、認知症関連研修。	ア
④運営における基本視点、その他			
11 公益的な機関として、公平で中立性の高い事業運営を行うことを十分理解し、業務において実践している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 仕様書の通りきちんと対応は心掛けてあつていいる。ケースの特性・地域性に合わせ専門性も考慮しながら偏りのない様に利用者等と相談の中で業務を実践している。	ア
12 地域包括支援センターの事業計画を、市の提示する目標や方針を踏まえて作成している。また、達成状況について、評価している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 事業計画を作成し、中間評価などの見直しを実施した。改善策等についてセンター内で協議し目標が達成できるように見直ししながら現在も対応を日々すすめている。	ア
13 個人情報保護の重要性を認識し、個人情報保管の点検など取扱いについて適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 紙媒体(個人ファイルや相談記録等)の施設管理、電子情報の情報もセキュリティ管理についても含め注意をしている。口頭漏洩に関しても注意している。	ア
14 事故や災害などの緊急事態が発生した場合に十分な対応策が図られる体制になっている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア 包括内でのBCPを含めて連絡体制・対応などの手順は決まっている。緊急時の対応者名簿も作成。災害時のリスクが高い地区が多い為、何かあった際に連絡網などを確認をしている。事業所が稼働できるよう法人とも連携して機材や備蓄も備えている。	ア

2 地域包括支援センターの運営等必須業務について

①総合相談・支援業務

15	＜地域におけるネットワークの構築＞ 民生委員、町内会、医療機関、商店など地域の関係者と顔の見える関係づくりを行うため、関係機関に出向きセンター機能の周知活動を実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	周知活動回数(53)回 包括やちよーびーの便利帳の周知啓発及び関係者との関わりは継続、定期的な2層協議体への参加により地域の関係強化につながっている。5地区にて民生委員定例会や日々の情報共有を心掛けてからの電話や訪問対応をすすめた。	ア	地域の関係機関とのネットワーク構築に尽力している。引き続き、幅広いネットワークづくりを構築していくこと。
16	＜実態把握業務＞ 高齢者実態把握事業などにより、支援を必要とする高齢者の把握を行い必要な支援につなげている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	対象者29名のうち、事前把握8名、訪問は21名、訪問した結果、把握できたのは13名、不在8名、拒否はいなかった。 不在者には、包括チラシ及び不在票を投函し、後日の連絡をいだけた方は1名。不在者に関しては、民生委員と情報共有を含め連携を心掛けた。	ア	
17	担当圏域の地域特性や高齢者のニーズを把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	これまでの実態把握調査や2層協議体、地域関係者から情報を取っているが団塊の世代の流れもあり、地域関係者が次の代に変わりつつある。健康状態は同年代でも差があり、農家・勤め人などによっても様々である。開催場所や対象・内容などの要望についても西部地区の東側よりと西側では違いがある。だが全体的に予防のニーズは高く、包括では認知症・介護予防などに対応している。	ア	
18	＜総合相談支援業務＞ センターとして抱えている事例や対処方法について相互に報告し合い、職員全体が協働して支援方針の検討等ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	3職種の特徴を活かしセンター内共有しながら支援方針を協議して対応している。共有が薄くならないよう現状理解者を中心にその都度、対応方法を検討して対応している。	ア	
19	地域包括支援センターに寄せられる相談をワンストップサービスとして受け、必要時、他機関と連携を図ることができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	ケースに応じて適切な機関へつなぎ連携を図ることができている。 主な連携先: サポートセンター、市役所、海匠ネットワーク、社会福祉協議会、消防	ア	
20	高齢者福祉サービスや社会資源等の情報及び活用方法をセンター内で共有し、繋ぐことができている。また、必要により、個別支援計画を作成し、継続した支援を行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	センター内で情報共有し、介護保険や高齢者福祉サービスを理解し、必要な高齢者をサービスに繋げている。専門的な関与や緊急対応が必要な場合には、個別支援計画を作成し継続した支援を行っている。	ア	

②権利擁護業務

21	＜成年後見制度などの活用＞ 高齢者の判断能力や生活状況等から、成年後見制度や日常生活自立支援事業(すまいる)などを利用する必要があるかを適切に判断し、対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	相談件数(案 8 / 延べ 158)人 市長申立て数 (1)人 成年後見制度やすまいるの相談があった際は、その都度早急に対応し、必要と判断した場合は利用に繋げている。今年度は市長申立てが1件あり、基幹型と協力しながら、利用に繋がった。	ア	後見事務について連携を図りながら対応ができている。今後も基幹・委託にて役割分担をしながらの対応を期待する。また委託包括内でも役割分担し職員に偏りがないよう配慮すること。
22	＜老人福祉施設等への措置の支援＞ 環境上及び経済的理由による措置として、養護老人ホームに関する相談を適切に実施し、必要に応じ市に情報提供している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	エ	相談件数(案 / 延べ)人 該当者なし	エ	
23	＜高齢者虐待への対応＞ 養護者による高齢者虐待の通報受理、事実確認についてセンター長がスーパーバイザーの役割を果たし、全職員が対応できる。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待通告受理件数(案 5 / 延べ 142)人 虐待ケースは基本、2人の内1人は社会福祉士が入るようにはしているが、その時の業務状況も見ながら、対応する職員を決めている。	ア	
24	委託型センターとして、虐待の有無、緊急性について適切に判断し、迅速に対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待有判断数(案 1)人 類型: 身体 確認後、緊急性をセンター内で相談し、対応するようにしている。虐待関係の書類に関しては、基幹型に提出する書類だけでなく、他の関係機関(警察など)に提出する書類も出来るだけ早く提出するよう心掛けている。	ア	ケースの状況にもよるが、コア会議まで迅速な対応を心がけること。
25	関係機関との個別支援会議を開催し、関係者と役割分担し被害者及び養護者について適切に支援できるよう、コーディネートできている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	個別支援会議が必要なケース、前年度・判断不可ケースについても予防的な視点でその都度会議を開催し、関係者間で話し合いを行い、情報共有だけでなく今後の支援方針の確認などを行っている。	ア	
26	施設従事者の虐待対応について、市と協力した対応ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	エ	相談件数(案 / 延べ)人 該当者なし	エ	
27	市の権限による対応が必要であると思われる場合(老人福祉法上のやむを得ない事由による措置、高齢者虐待防止法上の立入調査など)、市と連携した対応ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	エ	やむ措置件数()件 該当者なし	エ	
28	虐待台帳を作成し、管理者である社会福祉士が中心となり管理し、支援が終了したケースについて必要であれば、継続的、定期的な見守り等の対応をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	虐待台帳登録ケース件数(1)件 社会福祉士が台帳管理を行い、基幹型包括と3ヶ月に1回台帳確認を行っている。虐待支援が終了したケースであっても、関係者に現状の確認を行うなどして、対応するようにしている。	ア	
29	虐待の実態を把握し、発生要因の分析や再発防止に向けた取り組みを実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	主な具体的取組み 虐待と判断したケースの他、虐待と判断しなかったが気になるケースについても、ケアマネや関係者、ご家族への連絡、定期訪問の中で養護者の状況、本人の生活も含め経過を確認している。必要な際には関係者で連携して対応をしている。	ア	
30	＜困難事例への対応＞ 困難事例を早期に発見し、関係者と連携し支援している。また、台帳を作成し、センター内で毎月ケースの振り返り、支援状況の共有等を行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	困難台帳登録ケース件数(1)件 困難事例早期発見の為に、日頃から関係機関と連絡を取るなどして連携を図っている。センター内で毎月口頭でのケースの現状確認を含め振り返りを行い、3ヶ月に1回の台帳確認の際は、基幹型に報告をし情報の共有を行っている。現時点1件(うち前年度からの継続1件、今年度新規0件)	ア	

31	＜消費者被害への対応＞ 消費者被害に関し、消費生活の相談窓口または警察署と連携し対応している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分 エ 該当者なし	エ	相談件数(案0/延べ0)人 該当者なし。芦崎いこいセンターでの西部ふれあい講座にて社会福祉士2名で消費者被害、クーリングオフも含め啓発を実施。また、プラチナ団体への警察署からの詐欺対策に伴う講座の案内に関して紹介を行う。	エ	
③包括的・継続的ケアマネジメント業務						
32	＜包括的・継続的なケア体制の構築＞ 地域の介護支援専門員が医療機関や民生委員など地域の関係機関と連携、協力できるような支援を実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	連携・協力を実施した回数(34/189)回 CMの支援を目的の地域ケア会議や主治医や民生委員への同行訪問や事前情報提供も含めCMとながりに対応を行っている。	ア	
33	＜地域における介護支援専門員のネットワークの活用＞ 介護支援専門員相互の情報交換を行う場を設置し、介護支援専門員同士のネットワークを構築している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	具体的な活動 てうしケアマネくらぶ運営に関して3包括で協力。芦崎いこいセンターを使用してCMや施設関係者と事例検討も含めた研修なども実施し、関係づくりや情報交換や提供も行っている。	ア	
34	＜介護支援専門員に対する個別支援＞ 困難事例への支援について、個々の介護支援専門員に合わせた個別指導、相談対応を適切に行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	対応件数(9/41)件 相談ケースのCMより現状を把握しながら、CMの後方支援を心がけて対応している。	ア	
35	圏域別グループで構成される居宅介護支援事業所と協働し、資質向上、資源と災害、医療介護連携の3つのテーマについて取り組んでいる。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	主任CMの担当者と現状を確認し、資質向上が図られ、連携の幅が広がるように対応している。5月に芦崎いこいセンターにて社会資源グループの交流支援、防災に関して研修会の情報提供を実施。3月に地域防災活動(小船舶地区)を2層協議体メンバーと企画している。	ア	
36	介護支援専門員や介護関係者のニーズや課題を踏まえ、スキルアップや連携強化を目的とした地域ケア実務者会議を適切に開催している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	実務者会議テーマ 認知症 出席者数 98名(民生委員含め) 前回のアンケートの要望にて認知症をテーマに実施。介護・医療関係者・民生委員が参加し、エーザイの協力も得ながら地域でも活かせる内容で開催できた。	ア	
④地域ケア会議推進事業						
37	支援困難な事例等に関する地域ケア個別会議について、会議を行う意義や目的を職員全員が理解し、適切に会議を開催している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	地域ケア個別会議実施回数(2)回 今年は様々な取り組みに関して、調整している。今年度、目標数5件で必要と思うケースについて実施し、開催後に包括内で協議も含め包括内研修も実施している。	ア	引き続き必要なケースに対し実施すること。
38	地域ケア個別会議により、個別課題の解決の他、担当圏域の高齢者のネットワークづくりや地域課題を把握することができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	ネットワークづくり会議回数(2)回 地域課題発見会議回数(2)回 個別課題の解決、動物に関したものなど、担当圏域の高齢者支援のネットワークづくりは継続実施している。地域課題の把握に関して昨年に引き続き地区ごとのまとめ抽出ワード(独居・高齢者など)をあげて確認した。状況に応じて地域関係者にも会議に参加していただいたり、会議後にも連携を心掛けて、ネットワーク構築・拡大が必要。	ア	ネットワーク形成・地域課題把握のために適宜会議を開催すること
39	地域ケア個別会議から明らかになった課題を集約し、基幹型センターや市に提言し、資源開発や政策形成に寄与している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	今までの会議の課題に関し、圏域町内ごとの傾向や現状の特性を再確認した。個別会議やネットワーク構築の中でケアマネ、SCも含めた地域状況を伝えている。今後市への報告を継続的に心掛けている。	ア	
⑤介護予防ケアマネジメント、介護予防支援業務						
40	介護予防支援等について、介護予防の視点を理解し、自立にむけた介護予防サービス計画の作成、サービス担当者会議、モニタリング、評価など一連のプロセスを適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	介護予防の視点を理解し、自立にむけた一連のプロセスを実施している。	ア	
41	自立支援・重度化防止に資するケアマネジメントを、センター職員及び委託する事業所に周知している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	日々の支援の中でできていることを見つけて貰えるよう促し、サービスありきにならない様にアセスメントするようにセンター内・委託先に定期的に毎月の実績の確認の際に状況を伺いながら伝えている。7月に3包括で連携し介護予防プランに関して研修会を開催し、西部包括にて資料づくり、講師担当を行った。	ア	
42	ケアプランにおいて、多様な地域の社会資源を位置づけているか。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	位置づけた社会資源(おもなもの) 地域ネットワークの活用を心掛け本人の家族、友人、クラブ仲間、サロン、プラチナ体操、オレンジカフェ、傾聴ボランティア、近所、町内会関係者も含め計画に位置づけを心掛けている。	ア	
43	居宅介護支援事業所への一部委託については適切な件数とし、介護支援専門員に対し計画の確認や助言指導を行っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	直営件数 33件(内 11件 事業対象者)、委託件数 124件(12月給付管理分) 直営25件を保てるように目標数値としている。ケースに合わせ本人、家族と相談の中で居宅介護支援事業所のCMと相談し、対応可能状況を確認して担当の調整をすすめている。また、委託の際に計画の確認、助言指導を実施している。	ア	

3 市と協力して実施する事業

①在宅医療・介護連携推進事業

44	担当圏域の住民が活用できる医療・介護サービス資源を把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	市内、近隣の医療・介護等のサービスについては確認し、パンフレット等も活用している。情報は収集しているつもりだが、その都度、電話などで直接確認をとるようにしている。	ア	
45	通常業務の中で主治医など医療関係者と連携し、医療と介護の連携の課題を把握している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	関係者からの情報等からケースに合わせて生活環境、ADL、内服状況を含めて連携室や主治医と相談しながら対応している。関係者からの情報より、医療介護に必要性がある際、つながる環境を築いていくことを家族やケアマネを含め関係者と連携の中で心掛けている。	ア	

②認知症総合支援事業					
46	市民や関係者から認知症の疑いなど初期の相談を適切に受けられるよう工夫している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	主な具体的な工夫(2つまで) 定期講座の健康百寿の中で初期相談の必要性も必ずお伝えしている。アルツハイマー月間・六中文化祭に合わせた認知症啓発を小学校の協力の中イラストの塗り絵を継続して地域の中でも進めている。	ア
47	認知症高齢者の支援について、認知症初期集中支援チームとチーム員会議などを通じ、適切に連携を図っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	チーム対応件数(前年度継続 来1/延べ2)件 前年度からの継続ケースに会館等へ参加。認知症初期集中支援チームの啓発もイベントも含め支援。新規に関しては介護相談から介護申請での連携調整の中で暫定サービスなどもあり初期集中支援チームにつながりにくい場面が多々ある。	ア
48	認知症カフェの活動や立ち上げの支援を適切に実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	認知症カフェとの連携回数(65)回 園地カフェ1箇所が毎月開催され、8回参加し、活動への協力と地域の方々や当事者、CMIに情報提供も実施し、カフェとCM等をつないでいる。また、生涯大学を含めたボランティアも随時入れられ調整している。SNSでの啓発活動も実施した。	ア
49	認知症サポーター養成講座など認知症の啓発普及に関する取り組みを実施している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	講座開催回数(24)回 サポーター養成講座は職域(市職員・郵便局・社協)に開催。認知症関連市民講座、認知症サポーターフォローアップ講座等を開催。プラチナ団体や2階・地域団体への認知症関連講座等開催。地区団体への認知症への理解を含めて備見が取り除けるように認知症の予防普及啓発も含め説明している。	ア 市民向けの講座を多数開催し、普及啓発によく取り組んでいる。
③生活支援体制整備事業					
50	圏域の生活支援コーディネーター(SC)と連携した地域活動をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	近隣の機関などに紹介し、実態把握や総合相談の中で啓発し、便利帳の必要な方に配布等実施している。実態把握調査での配布を行いながら地域情報も伝達し、新たな情報もSCと共有している。	ア
51	第1層協議体の地域支え合い推進会議や第2層協議体の西部ふれあい会に積極的に参加し、地域の課題把握や社会資源の報告等をしている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	1層協議体では、情報共有や西部地区の現状を伝えている。2層協議体では、打ち合わせで会場を提供。交替で職員が出席し、委員との情報交換しネットワークを強化をしている。旧六中文化祭では地域関係者を交えた対応ができた。船木地区民児協と連携し、船木小の児童達の書初め・七夕短冊の設置をいこいセンターで実施し、地域の方々へ活動を啓発できた。認知症に関しての地区の講座を3箇所開催した。	ア
④一般介護予防事業					
52	全職員が介護予防の普及啓発を実施できている	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	口腔、栄養を含めフレイル予防・プラチナ体操に関して面接時や訪問・実態把握の際に啓発してきた。教習所での健康ミニセミナー(月2回)では、前期高齢者も含め現状の体の状況を知ってもらい、生活の中での予防や対応を伝えた。相談時の介護予防事業も含め情報の提供も行っている。	ア 市民向けの講座を多数開催し、普及啓発によく取り組んでいる。
53	圏域内で銚子プラチナ体操などの通いの場が増えるよう活動に工夫している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	総合相談、西部ふれあい講座等の際にプラチナ体操の紹介を行っている。2層協議体や民生委員など地区の関係者に根気よく支援を継続し、地域活動団体にてプラチナ体操開設(スイミングクラブを含めて今年度2カ所)。今後も地域へ介護予防や認知症関連内容の啓発活動を実施していく。その他、新たな会場にて健康講座を企画し、新規参加者支援や団体づくりを調整している。	ア 講座受講者から介護予防に取り組む団体が発足することを期待する。
54	全職員が圏域内の高齢者に介護予防の啓発(目指せ元気シニア講座など)を実施できるスキルを持っている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	介護予防講座開催回数(26)回 全職員で介護予防啓発スキルは持っており、講座も各地区担当も含めて対応している。次年度も地区担当と地域の要望に応じて調整をしていく。毎月1回の西部ふれあい講座の開催と大洋教習所の健康ミニセミナー(概ね月2回)の実施	ア
55	介護予防に資する活動グループ(プラチナ団体など)の育成及び支援ができている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	プラチナ団体新規立ち上げ団体数(2)団体 活動団体支援回数(35)回 定期的な訪問と西部ふれあい講座等を交えながら団体の状況に合わせて支援をしてきた。代表者によっては世代交代もあった。交流会参加時は、送迎も含めて相談対応。中央地区プラチナ交流会で椅子ヨガを担当し、東部地区交流会の手伝いを実施した。食生活健康推進員と男性の料理教室、健康体操・ヨガの講座も開催できた。	ア
4 その他の業務					
56	地域密着型サービス事業所の運営推進会議に参加し、サービスの向上及び地域に開かれたサービスとなるよう働きかけている。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	担当地区ごとの割り振りに対応している。施設により新型コロナウイルスやインフルエンザの影響で文章にて情報公開、意見の集約を行う形で実施(グループホーム2箇所・小規模多機能2箇所、地域密着特定施設介護付有料1箇所、地域密着型特養1箇所、地域密着型デイ4箇所、定期巡回サービス1箇所)。関係者への地域密着の動きも地域の方にお伝えしている。	ア
57	毎月の業務実績について、提出期限を遵守し関係書類を市に提出している。	ア できている イ ほぼできている ウ 不十分	ア	提出期限を守り提出できるように努力している。	ア

令和6年度の評価を通して共有された課題及び成果を上げていること

＜成果＞

- ・各地区の団体と連携し、健康や認知症関連講座も開催し、新規の参加者は市内全域の、3包括のチラシでの圏域を超えて周知を行いながら対応し、認識度も増えてきていると思われる。SNSも含めた啓発活動や2層での西部ふれあい会や旧六中地域交流文化祭等で地域ネットワークは強化している。関係者とのつながりも深まってきており、継続してネットワークを広めていきたい。
- ・認知症関連、介護予防講座を開催（圏域外含め）。認知症啓発は、アルツハイマー月間に合わせて8月から10月にてオレンジじょうしを開催し、認知症や成年後見関連のパネル展示を実施。てうしケアマネクラブや地域団体も交えて地域住民への認知症への理解の普及啓発も実施できた。
- ・圏域オレンジカフェと連携し、ガールスカウトや生涯大学校のボランティアも定期的に参加し、地域の交流の場としても地域の中で認識されてきている。
- ・プラチナ団体への西部ふれあい講座、2層も兼ねた地区での認知症関連講座（海上、松本、森戸）で講師として対応。
- ・プラチナ体操は代表者とのやり取りしながら定期的に現状確認、体力測定やリハ職と同行も実施できた。新たな団体の発掘の為、地域の方々には声掛けを行ってきた。

今年度2箇所新規開設。

- ・昨年度より継続で教習所での健康ミニセミナーを月2回開催し、チェックリスト、握力測定等を実施し、現状の健康状態を認識していただいた。3包括の啓発も行った。
- ・餃子市戸崎高齢者いきいきセンターにて毎月、西部ふれあい講座を三職種で開催することができた。
- ・今年度も西部地区の食生活健康推進員と交流を持ち、お互いの情報交換や研修会を実施。男性の料理教室での参加者とも情報交換を行うことができた。
- ・包括的継続的ケアマネジメントについては、ケアマネと連携し、つながりを持ちながら継続的に困難ケース対応してきた。西部地区事業所交流会も行いながら関係者の顔の見える関係づくり。

介護関係者支援、事例検討なども年度内2回行えた。次年度に向けても定期的な会につながると考えている。

虐待対応については、センター内での役割分担をしながら職種ごとに協力して対応する意識を深めてきた。

＜課題＞

- ・60代の新たな対象者が健康意識や地域のつながりを持てるような生活が必要。戸崎高齢者いきいきセンター以外で健康関連講座も必要と考えている為、今年度中に東総グリーンセンターを新たな会場として2月3月に開催し、状況を確認しながら次年度の開催レイアウトも検討していく。
- ・てうしケアマネクラブ西部地区と連携し年間の中での活動を継続的にすすめて行けるように担当者との後方支援が必要。

令和7年度、取り組む課題と課題解決のための対応

＜取り組む課題＞

①新たな対象者が健康意識や地域のつながりを持てるような生活が必要であり、予防的にも若い年代である前期高齢者（60代）からアプローチをしていく必要がある。

②てうしケアマネクラブ西部地区と連携し、年間の活動の中でケアマネを含めインフォーマルにつながるように活動の後方支援が必要。

【対応】

①東総グリーンセンターにて包括周知も含めて市内全域対象、男女不問にて2月と3月に新たに健康関連の講座を開催し、新規参加者に健康意識をもっていただくことで、各圏域に波及できるように意識化し、参加者の状況も分析しながら次年度の定期開催とレイアウトを包括内で共有しながら参加者への支援を継続していく。

②てうしケアマネクラブ西部地区以外のケアマネとも状況に応じた関係者との連携がとれるように後方支援を継続していく。

- ・地域の介護支援専門員が活動しやすくなるように居宅介護支援事業所や居宅サービス事業所、施設相談員、地域の民生委員の方々と一緒に参加のできる研修会などの機会をつくりながら、利用者への支援が行いやすい関係づくりを含めた支援を行っていく。

総評（基幹型が記載）

優れている点

- ・住民が興味関心を引くテーマで講座を企画し、地域住民の知識・意識の向上に努めている。認知症や消費生活、ヨガなど包括支援センター職員のスキルを活かしていることを評価する。また必要に応じて講師の依頼する等、関係機関との連携も図れている。
- ・オレンジカフェやわくわく広場など、当事者・支援者・多世代と幅広い住民が集まる場に出向き、包括の周知や交流に積極的に関わることができている。
- ・短時間でもケース共有や研修の機会を作り、支援業務のスキルアップを図ることができている。
- ・CMや施設関係者との研修会を行い、関係性の構築、スキルアップをはかることができている。

次のステップに向けてを期待したい取り組み

- ・西部包括主催の講座への参加だけでなく、参加者が主となって住民主体の集いの場に発展するような支援を期待する。
- ・地域ケア会議について必要なケースについては開催しているが、件数として少ないため、地域の課題把握・ネットワーク形成の為に一定数開催し、課題を抽出し、課題となっている部分へのアプローチができるようにしていくこと。
- ・認知症初期支援チームが活性化するよう、認知症の相談内容をまとめ、より良い連携方法を基幹と検討できるような体制を期待したい。

